

# 公益財団法人平野政吉美術財団

## 令和 6 年度事業報告

### <総括>

令和 6 年度の実業については、平野政吉コレクション、および藤田嗣治作品の展示公開、教育普及活動、および調査研究を行った。

美術館の指定管理については適切に実施した。

- ・展示公開事業は、常設展の他、特別展を 3 回、企画展を 2 回、開催した。日本の近代美術史に名を遺した作家たちの作品を展示する特別展「日本の洋画 130 年 珠玉の名品たち」では、明治から現代まで、日本近代美術史に名を遺す巨匠たちの作品を展示した。日本洋画の歩みを辿る展覧会となった。アクリル樹脂に絵の具を重ねて描く独自の技法で立体的な金魚を作り出す美術作家・深堀隆介氏の特別展「深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ」では初期の立体作品から最新作のインスタレーションを含む約 300 点を県民ギャラリーを利用して一挙に展覧した。ベル・エポック（美しき時代）と呼ばれる 19 世紀末から 20 世紀にかけてフランス・パリで活躍した作家や芸術の潮流を展覧する「ロートレックとベル・エポックの巴里展」では、ロートレックを中心に、シエレやミュシャ、ドガら同時期に活躍した画家たちの作品を展覧。ベル・エポックの華やかな時代の雰囲気垣間見ることのできる展覧会となった。企画展「平野政吉コレクション 絵画のなかの「街」」では、平野政吉コレクションから「街」を題材とした作品を展示し、画家たちがとらえた当時の生活の様子や雰囲気などを展覧した。企画展「藤田嗣治 言葉をつむぐ」では、画家・藤田嗣治の制作した作品とそれに関連した藤田の文章をあわせて展示した。作品のみならず多くの言葉も残した藤田の人となりに触れてもらう機会となった。
- ・教育普及事業としては、年度を通して講演会を 2 回実施した。特別展関連では、展覧会監修者や作品所蔵者に講師を依頼した。作品や作家の研究者、専門家を招いての講演会は大変盛況であった。ワークショップ、美術館教室をあわせて 6 回行った。ギャラリートークについては、学芸員が担当した。企画展・特別展はそれぞれの展覧会会期中、2~3 回実施した。《秋田の行事》について解説する定例ギャラリートークは月 1 回および竿燈期間に実施した。
- ・調査研究の成果としては、新聞、雑誌への寄稿において、学芸員が展覧会に関連する調査研究成果、および藤田嗣治に関する研究成果を発表した。
- ・美術ホール運営事業は、特別展「深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ」の会場として美術ホールを活用したほか、秋田公立美術大学や魁新報社など周辺施設を併せて利用する比較規模の大きい団体などが入場者数 1,000 人を超える展覧会を開催した。
- ・売店事業は、来館者へのサービスの一貫として、業者への委託販売とインターネットでの販売を展開した。

## I 展示公開事業

### (1) 常設展示事業

#### 常設展 平野政吉コレクションⅠ

- 1 会 期 令和6年4月20日(土)～6月30日(日)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションの中から、妻・マドレーヌを描いた作品や中国に取材した作品等を紹介した。
- 4 入場者数 13,300人

#### 常設展 平野政吉コレクションⅡ

- 1 会 期 令和6年7月6日(土)～9月29日(日)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションの中から、妻・マドレーヌを描いた作品のほか、室内を描いた作品、壁画《秋田の行事》を制作する際のデッサンなどを紹介した。
- 4 入場者数 11,131人

#### 常設展 平野政吉コレクションⅢ

- 1 会 期 令和6年10月5日(土)～12月15日(日)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションの藤田嗣治作品の中から、中国に取材した作品をはじめ、妻・マドレーヌを描いた作品を展示した。
- 4 入場者数 13,365人

#### 常設展 平野政吉コレクションⅣ

- 1 会 期 令和6年12月21日(土)～令和7年4月6日(日)  
※休館日 令和6年12月31日(火)～令和7年1月2日(木)  
令和7年3月10日(月)～3月19日(水)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションから、妻・マドレーヌをモデルとした作品や中国に取材した大作などを展示した。
- 4 入場者数 7,778人(全期間)

### (2) 企画展示事業

#### 企画展 平野政吉コレクション 絵画のなかの「街」

- 1 会 期 令和6年7月6日(土)～9月29日(日)
- 2 会 場 ギャラリー1・2
- 3 内 容 全国各地の名所、身近な景色を描くときの題材となる街。その中には、人々の生活の様子を描いた作品もあり、当時の暮らしぶりやその場所の雰囲気を感じることができる。作品からは画家がその街並みに向けたまなざしや思い、そして風土や人の営みが見えてくる。本展では、平野政吉コレクションから、「街」が描かれた作品を展覧し、描かれた街に込められた在りし日の景色と人々の暮らしに注目した。
- 4 入場者数 11,131人

企画展 藤田嗣治 言葉をつむぐ

- 1 会 期 令和6年12月21日(土)～令和7年4月6日(日)  
※休館日 令和6年12月31日(火)～令和7年1月2日(木)  
令和7年3月10日(月)～3月19日(水)
- 2 会 場 ギャラリー1・2
- 3 内 容 画家・藤田嗣治は絵を描くかたわら、随筆や日記、手紙など幅広いジャンルで多くの言葉を残した。それには彼の制作活動に関わる言葉や関心を寄せた物事、心惹かれた情景などが綴られており、藤田の人となりが多い作品とともに言葉という形でも今に伝わっている。本展では、藤田作品とそれに関わる言葉を紹介した。普段接する機会の少ない画家の記した言葉を読んでもらうことで、作品の新たな一面を発見してもらおうほか、藤田嗣治という人物に親しみを持ってもらえた。
- 4 入場者数 7,778人

(3) 特別展示事業

特別展 日本の洋画 130年 珠玉の名品たち

- 1 会 期 令和6年4月20日(土)～6月30日(日)
- 2 会 場 ギャラリー1・2
- 3 内 容 笠間日動美術館の所蔵品を中心に、日本洋画の父ともいわれる高橋由一、五姓田義松をはじめ、日本近代洋画の礎を築いた黒田清輝、藤島武二、浅井忠、青木繁、そして戦後の具象彫刻をリードした舟越保武など、明治から現代にいたる画家・彫刻家の作品を展覧した。日本の洋画がどのように生まれ、どのように変化していったのかを作品を通して紹介した。また、本展では画家と直接関わりのあった笠間日動美術館館長による作品解説も掲示。作品の背景や画家の人間性を垣間見ることのできる解説が好評だった。
- 4 入場者数 13,300人

特別展 深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ

- 1 会 期 令和6年8月4日(日)～9月29日(日)
- 2 会 場 県民ギャラリー
- 3 内 容 2.5D ペインティングとも称される斬新な技法により、何層にも重ねたアクリル絵の具で立体感のある金魚を描いた作品や平面作品など約300点を県民ギャラリーで展示。学生時代のインスタレーションから2023年制作の最新作にいたるまで、深堀氏の半生と金魚達に込められた思いを紹介した。美術作品としての完成度も然ることながら、直感的に楽しむことのできるこの展示には美術愛好家だけでなく、夏休みの家族連れや旅行客など幅広い客層が展覧会を楽しむ光景が全期間を通して広がった。
- 4 入場者数 31,353人

特別展 ロートレックとベル・エポックの巴里-1900年

- 1 会 期 令和6年10月5日(土)～12月15日(日)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー、ギャラリー1・2
- 3 内 容 「ロートレック」と「ベル・エポック」というテーマを中心に、三つの章にわけて作品を展覧した。第1章では、大胆な表現力でポスターを芸術の域まで高め、後世に大きな影響を与えた画家・ロートレックの作品を展示。ベル・エポックに生き、その時代を作り上げたともいえるロート

レックの生涯を作品とともに紹介した。第2章では、ベル・エポック期に発展を遂げた印刷技術や人々の消費活動の活発化を、当時人気を博した刊行物を通じて紹介した。第3章では、ロートレックとともにベル・エポック期に活躍したシェレやミュシャ、ドガらの作品を展示、明るく華やかなベル・エポックの雰囲気伝えた。本展覧会の出品点数は320点を越え、鑑賞者にとって当時のパリの様子や人々の暮らしを細やかに知る事ができる機会となった。また、多くの作品を展覧したことから、見応えのある展覧会だったと好評だった。

4 入場者数 13,365人

※同時開催の展覧会の入場者数は、各々表記した。

## II 教育普及事業

### (1) 講演会等

#### 特別展「日本の洋画130年 珠玉の名品たち」関連講演会

- 1 演 題 「日本の洋画130年 エネルギーを秘めた作品たち」
- 2 実施日 令和6年4月21日(日)
- 3 会 場 レクチャールーム
- 4 講 師 長谷川徳七氏(笠間日動美術館館長・株式会社日動画廊代表取締役社長)
- 5 内 容 講演では、「日本の洋画130年 珠玉の名品たち」の出品作品についてくわしく解説していただいた。また、画家との交流や作品を入手された際のエピソードなどについてもお話しいただいた。貴重なお話の数々に、参加者は熱心に耳を傾けていた。
- 6 参加者数 32人

#### 特別展「ロートレックとベル・エポックの巴里-1900年」関連講演会

- 1 演 題 「ロートレックとベル・エポックの時代」
- 2 実施日 令和6年10月5日(土)
- 3 会 場 レクチャールーム
- 4 講 師 河野泰久氏(本展監修者・福井市立美術館副館長)
- 5 内 容 講演では、ベル・エポックとはどんな時代だったのかを、パリ万国博覧会の様子やパリの街並みの写真資料とともに紹介。また、ロートレックの人物像や作品についても作品画像などを交えて詳しくお話しいただいた。日本美術、特に浮世絵に影響を受けたというロートレック。構図や色使いなど、ロートレック作品と浮世絵を比較しながらの解説もあり、ベル・エポックという時代、そしてロートレック作品への理解を深める貴重な機会となった。
- 6 参加者数 39人

## (2) ワークショップ・美術館教室

### ワークショップ「夏の絵手紙を描こう」

- 1 実施日 令和6年8月10日(土)
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 澁谷重弘氏(秋田県立美術館館長)
- 4 内容 澁谷館長を講師に、夏が旬の野菜をモチーフとした絵手紙作りのワークショップを開催した。今回描いたのはオクラ、トマト、なす、きゅうり、枝豆。画仙紙に墨と水彩絵具で5枚の絵手紙を制作した。館長からアドバイスと手ほどきを受けながら次第にコツをつかんだ参加者たちは思い思いに筆を動かし、みずみずしい夏野菜の絵手紙を完成させた。
- 5 参加者数 10人

### 美術館教室「手話による作品解説－《秋田の行事》と平野政吉コレクション－」

- 1 実施日 令和6年9月15日(土)
- 2 会場 大壁画ギャラリー
- 3 講師 学芸員、手話通訳者
- 4 内容 藤田嗣治の《秋田の行事》と、藤田作品を中心とした平野政吉コレクションについて、当館学芸員が手話通訳者を介して作品を解説した。2F大壁画ギャラリーに展示している、藤田の代名詞ともいえる「乳白色の下地」や、1930年代の色彩豊かな表現で描かれた作品を紹介し、画家・藤田嗣治の画業の足跡を辿った。そして、《秋田の行事》の解説では、作品が描かれた背景や平野政吉と藤田嗣治の交流、そして当時の秋田の人々の暮らしに触れた。参加者には、作品や手話に興味のある方や、実際に手話を使う方などが参加した。手話を介しながらのため普段よりゆったりとした解説になったことで、「作品と解説をじっくりと聞くことができた」「手話も興味深くみる事ができた」といった声をいただいた。手話による解説を通じて、多様な参加者が作品の魅力を深く味わい、手話や美術への関心を高める機会となった。
- 6 参加者数 23人

### ワークショップ「絵手紙をかこう～秋の彩りを添えて～」

- 1 実施日 令和6年11月23日(土・祝)
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 澁谷重弘氏(秋田県立美術館館長)
- 4 内容 澁谷館長を講師とした絵手紙ワークショップの秋バージョンを開催した。使用したモチーフは実りの秋を感じさせる栗やかぼちゃ、柿など5種類。参加者たちは画材の扱い方に最初は苦戦していたものの、慣れてくるにつれて上達していき水彩画の面白さを味わう機会となった。
- 5 参加者数 13人

### 美術館教室「館長の見たフランス・パリ」

- 1 実施日 令和6年12月8日(日)
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 澁谷重弘氏(秋田県立美術館館長)
- 4 内容 講師である澁谷館長が若い頃に画家として留学したヨーロッパでの経験を紹介する館長講話を開催した。当時のヨーロッパの日常生活の様子をはじめ、画家として大きな影響を受けた芸術家たちとの交流など様々な話が展開した。滞欧中に撮影した写真も交えながらの講話に、参加者から「澁谷館長の貴重なエピソードが聞けてよかった」「当時のヨーロッパの雰囲気を知

ることができた」などの感想が寄せられた。

6 参加者数 22人

#### ワークショップ「ポストカードフレームをつくろう！」

- 1 実施日 令和7年2月8日（土）
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 学芸員
- 4 内容 作品を彩る額を自ら作成した藤田嗣治にちなみ、ポストカードフレームの飾り付けに挑戦した。はじめに学芸員が藤田嗣治や作品について解説。その後、参加者はポストカードから感じるイメージを思い描き、スチレンボードのフレームに思い思いに飾り付けを行った。レースやシーグラス、ビーズ、モールなどで彩られた、個性豊かなフレームが完成した。
- 5 参加者数 7人

#### ワークショップ「絵手紙で出す春の便り」

- 1 実施日 令和7年3月2日（日）
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 澁谷重弘氏（秋田県立美術館館長）
- 4 内容 渋谷館長の絵手紙ワークショップを開催。今回描いたのはカブ、しいたけ、スナップエンドウ、いちご、わらび、菜の花、フリージアの春に旬を迎える野菜と花たち。館長からの「上手に描こうとせず、個性を大事に」というアドバイスをもとに水彩画の絵手紙作りに挑戦した。描き進めるうちに紙の上には参加者たちの感性が表れ、最後は待ち遠しい春の気配を感じる絵手紙が完成した。
- 5 参加者数 20人

#### 美術館教室「ミュージアムコンサート リコーダーが奏でるヨーロッパの調べー中世からバッハまでを辿るー」

- 1 実施日 令和7年3月30日（日）
- 2 会場 エントランスホール
- 3 講師 学芸員
- 4 奏者 リコーダーアンサンブル ウェスタ
- 5 内容 リコーダーによる中世ヨーロッパからルネサンス・バロック期までの楽曲を披露するコンサートを開催した。出演は市内を中心に活動しているグループ、リコーダーアンサンブル ウェスタ。はじめに当館学芸員から、藤田嗣治とフランス生活における音楽との関わりを彼の著書から引用して紹介。コンサートでは西洋の伝統的な舞曲や宗教音楽を、曲にまつわるエピソードや時代背景なども交えながら披露していただいた。現在とは異なる音階を使っていた時代の神秘的な音楽や、西洋の宮廷文化をイメージさせるような華やかな曲など多彩な音楽が演奏され、参加者は身近な存在でありながら奥の深いリコーダーの、柔らかく、豊かな音色に耳を傾けていた。
- 6 参加者数 36人

#### ワークショップ「ステンシル版画でカレンダーづくり」

- 1 実施日 令和7年2月1日（土）、2日（日）
- 2 会場 にぎわい交流館 AU1階
- 3 講師 学芸員
- 4 内容 なかいちウインターパーク「童っこの雪まつり」において、にぎわい交流館 AU を会場に「ステンシル版画でカレンダーづくり」を開催した。ワークシ

ショップでは、学芸員の指導のもと、ステンシル版画の技法を用いてカレンダーを制作した。たくさんの型紙のなかからお気に入りの形を選び、カレンダーの上に飾り付けし、絵の具をつけたスポンジで色づけした。雪の結晶やバラの花、猫やウサギ、星、秋田県の形など、自分だけのすてきなカレンダーが完成した。

5 参加者数 75人

### (3) 学芸員によるギャラリートーク

#### 特別展「日本の洋画 130年 珠玉の名品たち」ギャラリートーク

- 1 実施日 令和6年5月4日(土)、5月19日(日)、6月15日(土)
- 2 会場 ギャラリー1・2
- 3 講師 学芸員
- 4 参加者数 93人

#### 特別展「ロートレックとベル・エポックの巴里-1900年」ギャラリートーク

- 1 実施日 令和6年10月19日(土)、11月17日(日)、12月14日(土)
- 2 会場 ギャラリー1・2
- 3 講師 学芸員
- 4 参加者数 131人

#### 企画展「平野政吉コレクション 絵画のなかの「街」」ギャラリートーク

- 1 実施日 令和6年7月27日(土)、8月18日(日)、9月14日(土)
- 2 会場 ギャラリー1・2
- 3 講師 学芸員
- 4 参加者数 19人

#### 企画展「藤田嗣治 言葉をつむぐ」ギャラリートーク

- 1 実施日 令和6年12月28日(土)、令和7年1月18日(土)、2月16日(日)
- 2 会場 ギャラリー1・2
- 3 講師 学芸員
- 4 参加者数 30人

#### 常設展関連 定例ギャラリートーク《秋田の行事》を読み解く

- 1 実施日 令和6年4月6日(土)、5月4日(土)、6月1日(土)、7月6日(土)、8月3日(土)、8月4日(日)、8月5日(月)、8月6日(火)、9月7日(土)、10月5日(土)、11月2日(土)、12月7日(土)、令和7年1月4日(土)、2月1日(土)、3月1日(土)
- 2 会場 大壁画ギャラリー
- 3 講師 学芸員
- 4 参加者数 301人

### Ⅲ 調査研究事業

#### 1. 新聞寄稿

##### 作品解説

- ・佐々木佳苗「高橋由一《鮭図》、五姓田義松《人形の着物》、青木繁《二人の少女》、佐伯祐三《パリの街角》、鴨居玲《勲章》」－特別展「日本の洋画 130年 珠玉の名品たち」出品作品『秋田魁新報』「近代洋画の軌跡」1～5、令和6年4月28日～5月2日
- ・佐々木佳苗「高橋由一《丁髷姿の自画像》、黒田清輝《黒田清兼像》」－特別展「日本の洋画 130年 珠玉の名品たち」出品作品『秋田魁新報』すいよう学芸館、令和6年4月10日
- ・佐々木佳苗「萬鉄五郎《自画像》、森本草介《微睡の時》」－特別展「日本の洋画 130年 珠玉の名品たち」出品作品『秋田魁新報』すいよう学芸館、令和6年6月3日
- ・小泉俊貴「司馬江漢《不忍之池》、藤田嗣治《客人（糸満）》」－企画展「平野政吉コレクション 絵画のなかの「街」」出品作品『秋田魁新報』すいよう学芸館、令和6年7月3日、8月28日
- ・佐々木佳苗「アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《アルティザン・モデルヌ》、《金色の怪人面装飾のある棧敷席》、《マルセル・ランデ嬢の胸像》、《メイ・ミルトン》、《ラルヴェ・ブランシュ》」－特別展「ロートレックとベル・エポックの巴里－1900年」出品作品『秋田魁新報』「パリ 美しき時代－ロートレック展」1～5、令和6年10月1日～10月5日
- ・佐々木佳苗「ジュール・シェレ《「虹」 フォリー・ベルジュール》、アルフォンス・ミュシャ《ノエル 1896:『イリュストラシオン』誌、1896年クリスマス号の表紙》」－特別展「ロートレックとベル・エポックの巴里－1900年」出品作品『秋田魁新報』すいよう学芸館、令和6年11月20日
- ・小泉俊貴「藤田嗣治《秋田おばこ》、『四十雀』より《うわさ話》」－企画展「藤田嗣治 言葉をつむぐ」出品作品『秋田魁新報』すいよう学芸館、令和7年3月5日

### Ⅳ 美術ホール運営事業（貸しホール事業）

#### 1. 事業内容

- ・県民ギャラリーの利用者に対しては展示構成を確認し、展示作業の補助および作業監視を行った。
- ・大型の特別展事業を行った。
- ・特別展「深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ」では美術ホールを使用して展示を行った。
- ・セカンドスクールで来館した児童・生徒に、美術ホールで開催している展覧会の鑑賞を勧め、特別展や企画展との相互利用を促した。

#### 2. 実績

総入場者数 50,663人

##### 主な使用履歴

- ・大川清一写真展 主催：秋田魁新報社  
令和6年4月17日（水）～5月21日（火）、入場者数：3,866人
- ・第66回秋田県美術展覧会 写真部門展示 主催：秋田魁新報社  
令和6年6月15日（土）～27日（木） 入場者数：1,690人
- ・鎌田俊夫 彫刻回顧展 主催：鎌田俊夫  
令和6年11月2日（土）～11日（月） 入場者数：1,377人

- ・秋田公立美術大学卒業・修了展 2025 「かけて、たして、ひいて、わって」  
主催：秋田公立美術大学 令和7年2月11日（火）～18日（火）  
入場者数：1, 815人
- ・第64回 全県新年書きぞめ展 主催：(有)書友社  
令和7年2月28日（金）～3月3日（月） 入場者数：1, 987人

## V売店事業

### 1. 事業内容

- ・インターネットでの《秋田の行事》額絵の販売。
- ・秋田県立美術館ミュージアムショップ運営業者・光風舎へ委託販売。

### 2. 実績

- ・売り上げ総計 15品 3,057枚

#### 内訳

《秋田の行事》レプリカ	803枚
《秋田の行事》額絵	25枚
絵はがき12種	2,229枚